



新生NORCに向けて基盤整備に全力

会長 戸田邦司



風薫る今年のゴールデンウィークは、天気も概ね良好で、会員各位はヨッティングその他のレジャー活動を満喫されたことと思っております。

さて、NORCの会報誌『OFFSHORE』は、残念ながら昨年7月で定期刊行を一旦取り止め、昨年12月にはモノトーン版で第250号をお送りして、再び中断しておりました。このたび構想を新たに新聞形式のタブロイド版で、本部の動きを中心とした記事を掲載した『OFFSHORE』を、最低年4回お届けすることにしました。

昨年度のNORCの最大課題は、本部の財政悪化への対応策としてのリストラの実施でしたが、一応先の見通しもつき新たな事業計画、収支予算について、本年2月の理事会、代議員会、

総会でご賛同をいただくことが出来ました。本年1月末で塩原専務理事が運輸関係の別法人に転職されたことから、本年4月の今年度第2回理事会で、尾島理事を専務理事に、海保出身の加藤正義氏を常務理事にする件について了解をいただきました。

本部事業については、再建問題特別委員会においても検討が進められて来た所で、基本的にはすべての外洋におけるセーリング活動が円滑に行われるよう基礎的な条件を整備することであり、その結果、全国のセーリング仲間の活動が拡大し、一般の人々にも海洋スポーツの重要性を認識していただけるのではないかと思います。

そのためにはレースに関する問題、安全問題

等公的規制問題、泊地、航行可能水域問題等々について、会員の皆さんが全国どの地域にあって安心して活動して行けるよう、当面の活動を進めて行きたいと思っております。

また、積年の問題であります日本ヨット協会問題、〈たか号〉問題、対官庁、関係団体との連携等にも、公益法人としてしっかりと対応して行かなければなりません。

より一層多くの人々が、海の素晴らしさに魅せられて勇気を持って海に出て行き、日本の海も世界の海も我々の活動の場となる時が来ることを夢見つつ、当面の諸問題に取り組んで行きたいと思っておりますので、会員の皆様、関係者の方々にはよろしくご協力のほどお願い致します。

NORC及びJYA問題について

専務理事 尾島裕太郎

NORC及びJYA統合問題について、会員の皆様に進捗状況をご報告いたします。

1. NORCとJYAは統合のため、委員会設立を打ち合わせました。
2. NORC側・政策委員会を中心に戸田会長、1995年12月3日第132回理事会で「NA問題のためのワーキンググループ」が諮られ8名の構成員が選ばれたなかから、古川関東支部長・児玉萬平氏、9310委員会委員長・9412委員会委員長・構造改革委員会を経験している高田関東支部長、加藤常務理事、尾島裕太郎専務理事の5名の参加でした。JYA側・秋田会長・米沢副会長、貝道理事長、穂積技術本部長、有馬舟艇委員会委員長が参加いたしました。
3. 1997年2月4日より3回の会合の結果、日本の帆走艇に関わる統合的な組織の創設を目的とし、会議の名称は「日本ヨット界統合準備委員会」と決まりました。会議の場所は、双方の本部で交互に行います。「日本ヨット界統合準備委員会」へ5月20日覚え書きと課題解決の委員会ルールを取り交わしました。私は、これからは統合に向けNORCとJYA双方のベクトルの同意を内外に知らせるものと考えております。
4. 「日本ヨット界統合準備委員会」の担当は次の委員が相互に認められました。NORC側は古川保夫、児玉萬平、高田尚之、加藤正義、尾島裕太郎です。JYA側は米沢副会長、貝道理事長、穂積技術本部長、有馬舟艇委員会委員長、岩田指導育成本部副本部長です。但し、必要に応じ双方各委員会より委員の参

加など双方委員了解の下、対応できることとしました。

5. 5月20日、第1回の会合が持たれ覚え書きと委員会ルールを取り交わします。次回会合で、NORC側は「日本ヨット界統合準備委員会」会議の目次作りとスケジュールを提案します。
6. 今後、帆走統括チーム・政策統括チーム・総務統括チームの皆様にご相談することが増えると思います。会員の皆様もぜひご協力ください。
7. 進捗状況を、本部理事・各支部長の方々に手紙・Fax・E-mailなどを使用、ご報告いたします。支部長・フリートキャプテンにお願いし、会員の方々に伝えたいくつもりです。
8. この問題について、会員の皆様に本部からお知らせしたいことがたくさん出て参ります。しかし1回あたりの通信費がかさみ、予算を考えるとどうしようとお伝えできません。今後、本部は会員の皆様に手紙・会報などで一方的に文書を送るだけでなく、いろいろな手段で情報をお伝えし、折り返し会員のお考えを各支部を通じ本部までお送りいただきたい、そう考えております。まず、情報伝達方法のひとつとして、インターネット上にホームページを開設いたします。Faxを多用させていただきます。理事、支部長あてに文書をお送りします。フリートキャプテンを通じ会員にお知らせ願います。

97年度予算について

財務委員長 鈴木保夫

一般会計

(収入の部)

会費は、96年度の90%を見込み、事務局負担分180万円を臨時会費より一般会計に組み入れ、計3,085万円とした。

艇登録収入も96年度の90%とし、委員会については、計測委員会は計測料値上げによる増収を見込み391万円とし、会報収入は広告収入が期待できないため0とした。その他の委員会は昨年並みとした。

借入金収入については、決算時期と会費納入時期のずれによる、本部資金繰りのため、運転資金として東海支部よりそれぞれ500万円の借入を計上した。

その結果、当期収入合計5,167万円と前期繰越収支差額11,085,370円の合計62,755,370円を97年度収入予算とした。

(支出の部)

管理費は事務局のリストラの結果、人件費及び家賃を大幅に削減することが可能となり2,767万円とした。

レース関係においては、レーティング関係の事務委託料を、すべて計測委員会の負担としたため、96年度に比べ80万円増額し500万円とした。

会報委員会は『offshore』を3回または4回の発行とし、300万円とした。

本部では特別事業を除き、レースは行わないこととなったが、レース関係の委員会全体の予備費として、帆走委員会に50万円を計上した。

その他の支出の1,750万円は、東海支部からの、運転資金の借入金返済として500万円、残りの

500万円は救済基金の返済及び予備とし、次期繰越金を10,355,370円とした。

臨時会費

収入は96年度の実績の90%とし、96年度からの繰越金を加えた1,315万円とした。

支出の部では収入の半額を一般会計に計上し、代理人報酬金の支払いは、96年度未払い分と合わせて450万円を計上した。

事務局負担分180万円と、その他を含めた支出合計は7,185,000円となり、次期繰越金を5,967,300円とした。

97年度においては、事務局のリストラの結果黒字となる見込みであります。関東支部基金からの借入金3,140万円と、救済基金1,150万円の返済が残ったままとなっております。

関東支部に対しては帳消しをお願いしておりますが、救済基金については、返済していかなくてはなりません。

代議員会において、特別会員に寄付金を募り、救済基金返済の一部にあてることが承認されました。また、臨時会費の一部を一般会計に繰り入れ、これも返済にあてる案も諮りましたが、「臨時会費を安くし、その分の会費を値上げする」案を次回の代議員会に提出することとなりました。

正会員の方で、寄付にご協力していただける方は、本部事務局にお問い合わせ下さい。

ナイトセーリングの必需品!

夜間の安全航行を守る抜群の明瞭度、解析度そして増幅度。



米国ITT社が開発・製造し、これまで軍需用に使用されていた「ナイトマリーナ」が日本でも発売。「ナイトマリーナ」は星明りで300m、満月では620m先まで景色が確認できます。F/1.4光学系の視野角度40°で、ほとんど肉眼に近い視野が得られます。又高い防水・浮水性を要し、軽量でコンパクトな設計で片手の操作にも簡単に出来ます。

●NORC会員のみなさまには特別価格を設定しております。

ITT
NIGHT VISION™

光増幅型暗視装置

ナイトビジョンビューアー

ナイトマリーナ

■正規代理店

有限会社 ジュコー商会

横浜市中区太田町6-73 ハマビルディング302

TEL.045(212)5058/FAX.045(212)5139

96年度本部決算、97年度本部予算について

財務委員長 鈴木保夫

1996年度決算書

収支計算の部

1. 収入の部

科 目	決算額	科 目	決算額
会費収入	33,991,200	管理費	44,934,590
特別会員年会費	11,421,400	人件費	28,579,293
正準会員年会費	17,684,600	家賃	5,837,665
入会金	3,085,200	印刷費	939,141
その他	1,800,000	通信費	1,710,046

舟艇登録収入	7,675,200		
舟艇登録料	3,120,200		
会友艇登録料	4,555,000		

事業収入	6,515,440	事業費	22,740,054
レース参加料	94,000	帆走委員会	22,820
計測料	2,500,890	計測委員会	4,200,973
通信委員会	1,209,300	技術委員会	3,762
安全・ルール	281,000	ルール委員会	53,197
レース関係事業費計	4,085,190	安全委員会	249,886
会報	2,430,250	通信委員会	1,535,649
その他		レース関係事業費計	6,066,287
その他事業費計	2,430,250	会報小委員会	10,687,533
		総務委員会	5,140,326

雑収入	2,638,210	海事思想普及委	90,382
受取利息	6,306	泊地対策委員会	
その他	2,631,904	国際小委員会	527,552

会員 サービス 事業	2,636,601	財務委員会	208,639
頒布物品事業収入	623,620	法制委員会	16,295
保険事業収入	2,012,981	クルージング委	3,040
特別事業	8,151,870	その他事業費計	16,673,767
ジャパンカップ	8,151,870		

借入金収入	19,090,900	会員 サービス 事業	400,041
借入金収入	19,090,900	頒布物品事業費	357,811

敷金・保証金戻り収入	2,062,560	保険事業費	42,230
		特別事業	6,082,794
		ジャパンカップ	6,082,794

補助金収入	11,109,000	補助事業費	13,960,719
		敷金・保証金支出	1,767,000

		借入金返済計	0
		借入金返済計	0

		予備金	0
		予備金	0

当期収入合計	93,870,981	当期支出合計	92,822,452
--------	------------	--------	------------

前期繰越収支差額	10,036,841	次期繰越収支差額	11,085,370
----------	------------	----------	------------

収入合計	103,907,822	支出合計	103,907,822
------	-------------	------	-------------

訴訟対策費		支 出	
収 入		翻訳手数料	56,100
96年度臨時会費	12,947,000	代理人報酬一部金	1,500,000
		本部事務局負担金	1,800,000
		本部一般会計貸出	8,090,900
		小 計	11,447,000
		次期繰越	1,500,000
合 計	12,947,000	合 計	12,947,000

1997年度本部予算

収入の部

科 目

費収入計	30,850,000	管理費計	27,670,000
特別会員年会費	10,300,000	家屋賃	3,800,000
正会員年会費	15,900,000	印刷費	900,000
準会員年会費	50,000	通信費	1,100,000
入会金	2,800,000	事務用品等	200,000
その他	1,800,000	給与金	16,800,000
舟艇登録収入計	6,800,000	交通費	50,000
舟艇登録料	2,800,000	交際費	400,000
会友艇登録料	4,000,000	備品費	20,000

事業収入計	5,270,000		
レース参加料	0		
計測料	3,910,000		
安全検査料	250,000		
集結訓練費	0		
海事思想普及委	0		
泊地対策委員会	0		
会報委員会	0		
通信委員会	1,110,000		
総務委員会	0		
雑収入計	350,000		
受取利息	50,000		
雑収入	300,000		
特別事業計	500,000		
特別事業	500,000		
頒布品事業収入計	900,000		
頒布品事業収入	900,000		
補助金計	0		
補助金	0		
借入金計	5,000,000		
借入金	5,000,000		
積立金取崩計	0		
積立金取崩	0		
その他収入計	2,000,000		
その他収入	2,000,000		

計測料	3,910,000	雑費	300,000
安全検査料	250,000	支払利息	100,000
集結訓練費	0	退職引当繰入	1,920,000
海事思想普及委	0	福利厚生費	50,000

事業収入計	5,270,000		
レース参加料	0		
計測料	3,910,000		
安全検査料	250,000		
集結訓練費	0		
海事思想普及委	0		
泊地対策委員会	0		
会報委員会	0		
通信委員会	1,110,000		
総務委員会	0		
雑収入計	350,000		
受取利息	50,000		
雑収入	300,000		
特別事業計	500,000		
特別事業	500,000		
頒布品事業収入計	900,000		
頒布品事業収入	900,000		
補助金計	0		
補助金	0		
借入金計	5,000,000		
借入金	5,000,000		
積立金取崩計	0		
積立金取崩	0		
その他収入計	2,000,000		
その他収入	2,000,000		

総務委員会	0	代議員会	50,000
雑収入計	350,000	会議費	1,250,000
受取利息	50,000	事業費計	6,850,000
雑収入	300,000	帆走委員会	500,000

事業収入計	5,270,000		
レース参加料	0		
計測料	3,910,000		
安全検査料	250,000		
集結訓練費	0		
海事思想普及委	0		
泊地対策委員会	0		
会報委員会	0		
通信委員会	1,110,000		
総務委員会	0		
雑収入計	350,000		
受取利息	50,000		
雑収入	300,000		
特別事業計	500,000		
特別事業	500,000		
頒布品事業収入計	900,000		
頒布品事業収入	900,000		
補助金計	0		
補助金	0		
借入金計	5,000,000		
借入金	5,000,000		
積立金取崩計	0		
積立金取崩	0		
その他収入計	2,000,000		
その他収入	2,000,000		

頒布品事業収入	900,000	安全委員会	250,000
補助金計	0	通信委員会	1,050,000
補助金	0	総務委員会一他計	9,400,000
借入金計	5,000,000	総務委員会	9,400,000

1997年第1回 理事会議事録要旨

- 日時 平成9年2月23日(日) 11:30～15:30
- 場所 西桜福祉会館集会室
東京都港区虎ノ門1-21-9
- 出席者 理事30名中 出席17名
(出席) 戸田 邦司 山村 彰 石井 竹彦 石井 正行 稲葉 文則 大儀見 薫 尾島裕太郎 鈴木 保夫 高橋 太郎 野口 隆司 林賢之輔 松永 一生 小林 義彦 川端 治夫 都築 勝利 三井 祥功 秋山 福夫
(委任状) 能條 秀夫
(その他出席者) (本部安全委員長) 長江 博人 (関東支部) 古川 保夫 高田 尚之
- 議題
(1)1996年度事業報告及び収支決算報告
(2)1997年度事業計画及び収支予算
(3)新入会員の承認及び会員・登録艇の現状報告
(4)NORC組織及び運営規程の一部改正案
(5)支部及び専門委員会報告
(6)その他
(7)議事
(1)理事会の成立
尾島理事の司会により開会、出席理事は17名、欠席委任状提出理事1名で理事会の成立を確認、戸田会長が議長となり、議事録署名人に鈴木、野口両理事を指名議事に入った。
(2)1996年度事業報告及び収支決算報告
戸田議長は鈴木財務委員長に標題の報告を求めた。鈴木財務委員長は、理事会資料1996年度事業報告及び収支決算報告に従い報告した。なお、兄玉前財務委員長が補足説明した。＜賛成18名＞
(3)1997年度事業計画及び収支予算
(7)戸田議長は尾島理事に1997年度事業計画の説明を求めた。
尾島理事は理事会資料1997年度事業計画に従い説明した。
＜賛成18名＞
(4)戸田議長は鈴木財務委員長に1997年度収支予算の説明を求めた。
鈴木財務委員長は、理事会資料1997年度収支予算に従い説明した。リストラは限界に達し

ている。運転資金についても、有志による当座の資金調達により本部の会計が動いている。NORCは今後会員の拡大に努力をする必要がある旨訴えた。
＜賛成18名＞
なお、戸田議長から、本年1月末で退職した埴原専務理事の後任には、当協会では官界からの常勤理事は必要であるが、官退職直後の高給者でなくとも良く、海事関係に明るく、今後NORCの公的活動を行うことが適当な人物を折衝中で、具体化したときは、この人を常務理事としたい。また、業務の執行を強化するには、事務面と執行部スタッフの強化が必要である旨述べた。
＜賛成多数＞
さらに、鈴木財務委員長は、1997年度各専門委員会割当予算は極めて少なく、これの執行に当っては、プロジェクトチーム的な組織管理体制を検討し、担当理事を定め、責任を明確にすることが必要である旨発言があった。
(4)新入会員承認及び会員登録艇の現状報告
戸田議長は尾島理事に標題の説明を求めた。尾島理事は理事会資料の会員及び登録艇の現状及び会友艇登録の現状に従い説明した。
＜賛成多数＞
さらに、尾島理事はNORCは公益的活動強化による会員等の増を図るのは勿論であるが、例えば関東支部では、RACE MANAGEMENT PROGRAM等を無料配布する計画がある。各支部も同様な活動を行い、会員登録艇の拡大に努力するよう訴えた。また、野口理事からは上記RMPにレース委員会マニュアル実施要綱、帆走指示書などを付け加えることを研究中との報告があった。とくに、RMPのプログラムについては関東支部の協力が必要であると訴え了解された。
(5)NORC外洋帆走協会組織及び運営規定の一部改正案
戸田議長は尾島理事に説明を求めた。
尾島理事は、鈴木財務委員長から、急きょプロジェクトチーム的な組織をNORC組織及び運営規程の一部改正により行ってみたらどうかという申出を受けて検討を始めた。これには、現専門委員会の編成を政策総括、帆走総括、総務総括、財務の大きな部門に分

った。

NORC会友ならびに会友艇船艇登録規程

改正 昭和55年8月30日 昭和56年3月7日
昭和57年9月18日 昭和58年2月19日
昭和62年2月22日 平成元年2月26日
平成9年2月23日
(改訂部分は太文字+下線)

(船艇登録料・会友費)

- 第8条 会友艇登録料は、1艇につき13,000円とし、登録は3年毎に更新する。登録の有効期間中に所有艇を変更する場合は、新規登録を行わなければならない。
- 2 会友費は、1年につき4,000円とし、3年分12,000円を前納する。登録の有効期間中に所有艇を変更する場合は、新規に会友費を納付しなければならない。この場合の会友費は残存有効期間分との差額とする。
- 3 登録の有効期間中に特別会員になる場合は、入会金を半額にするとともに、年単位で残存有効期間分の会友費を割り引くものとする。
- 4 登録の有効期間中に会友のまま正会員になる場合は、入会金を半額にする。この場合、その他の割引はしない。
- 5 艇名変更等登録事項を変更する場合は、手数料として2,000円を納付する。

以上で審議を終了し(15:30)、1997年第1回理事会を終了した。

上記議事録に誤りのないことを証明し、記名押印する。

平成9年2月23日
議長 戸田邦司
署名人 鈴木保夫
署名人 野口隆司

1997年 第2回理事会概要報告

1997年第2回理事会は、4月18日(金)18:40から21:15の間、(社)日本外洋帆走協会会議室で開催した。出席理事は10名であったが、13名の欠席理事からは委任状が提出された。

会議の開始にあたり戸田会長は、NORCの現状では上京された理事の方々への旅費支給の余裕はなく、一方、取り組み問題は山積みの状況にある。総会前の理事会等は別として、理事会開催通知には審議内容を詳しく記載し、文書、ファクス、E-MAIL等により事前討議を積極的に行い、欠席の理事の方々から委任状をいただけるように図りたいとの表明挨拶があった。

人事案件では、尾島裕太郎理事を専務理事に、本年4月1日から勤務している加藤正義を常務理事に、野口隆司理事を帆走委員長とする件については、いずれも異議なく認められた。

議題「当面における効率的な運営と予算執行策」は、前回の理事会において討議成立した各専門委員会の少ない予算の執行を効率的に行うためには、プロジェクトチーム的な体制をとることが必要であるとの認識に立って今回策定したものである。資料「当面における効率的な運営と予算執行策」については、原案どおり承認された。

NORCとJYAとの統合問題については、改めて4月8日に両協会からの委員による第1回会議を開催し、日本ヨット界の大いなる発展を図るため、大局的見地から統合的な組織を創設する方向で検討を開始した旨が報告された。

本部は一昨年为本部、関東支部の分離時に、関東支部から31,400,000円を会計上借用したが、本部から関東支部に対し消滅とするよう依頼手続を文書にして行うことについて了承を得た。

また新生会報誌「OFFSHORE」の発行、'99メルボルン大阪ダブルハンドレースの検討状況について報告があった。

本部新組織について

当面における効率的な運営と予算執行策

- 目的編成……当面におけるNORCの効率的な運営と予算執行を期するため、本部の各専門委員会を統括したチームを別表のとおり編成して、事業活動の強化を図るものとする。
- 責任体制……当面別表記載の担当理事を、それぞれの統括チームの責任者とする。担当理事のほか、副担当理事をおく。副担当理事は担当理事を補佐する。
- 運営執行方針…担当理事は、統括チームによる事業活動の効率的・総合的推進・進捗を図るものとする。また、担当理事は、各専門委員会間の予算執行について、柔軟性のある統合的な調整を行うこととする。
- 情報公開……風通しの良いNORCを目指し、担当理事は実施状況を理事会に報告するとともに、各支部、各代議員のみならず各会員に対し、積極的な情報公開を行う。公開に当っては、ファックスまたはE-MAILを活用するものとする。

けてみたい。本件は大きな問題なので出席理事から、各種の御意見をいただきたい旨説明した。

戸田議長は、出席理事から各種意見をいただいたが、次回理事会まで更に検討するとともに、正確、迅速、安価な本部にするほか、支部理事間の連絡網を設置して風通しよくする。従来のレース活動に増して、公益的活動ができる新執行体制を早く整理し、NORCの活性化を図りたいと述べた。
＜全員賛成＞

(6)支部及び専門委員会報告

関東支部長古川保夫から関東支部より、本部へ貸付けた31,400,000円の返済の消滅について、現在関東支部において本部の意向を受けて前向きに検討中である旨の発言があった。

(7)その他

(7)NORC会友ならびに会友艇船艇登録規程の改正について

関東支部長古川保夫及び関東支部副支部長高田尚之から、現在会友艇の扱いについて、特別会員艇と会費についての差がなくなりすぎているという問題がある。このため、急ではあるが、NORC会友ならびに会友艇船艇登録規程の改正をお願いしたい。改正案は別添追加資料のとおりであるとの発言があった。戸田議長は各理事に賛否を問い、全員の賛成を得た。

(4)《たか号》裁判について

尾島理事から、《たか号》裁判は、昨年12月26日までに当方の証人喚問は終了し、当方で主張すべき点はおおむね述べたが、裁判の見通しは判明していない。当面従前通りの臨時会費はお願いせざるを得ず、一般会計への組み入れも、1997年度収支予算で説明した通り取り扱わせていただくことになっているとの説明があった。

(7)平成8年度補助事業について

尾島理事から、財団法人日本船舶振興会(日本財団)より補助金の交付を受けて補助事業を実施した。①IMSの調査研究及び②国際VHF海岸局の設置(鹿児島県鹿児島市、三島村、沖縄県宜野湾市、広島県大柿町)4ヶ所は、全部平成8年末に終了した。総事業費は13,960,719円、補助金11,109,000円であった旨、説明があ



1997年第1回 代議員会、総会議事録要旨

1. 日 時 平成9年2月23日(日) 1600～2000
2. 場 所 第1オカモトヤビル 4階会議室
東京都港区虎ノ門1-1-24
3. 出席者 代議員会 代議員 152名中 96名
(出席者 41名、委任状 55名)
総 会 会員 4,705名中 1,012名
(出席者 61名、委任状 951名)
4. 議 題
 - (1) 1996年度事業報告及び収支決算報告
 - (2) 1997年度事業計画及び収支予算
 - (3) 日本外洋帆走協会組織運営規程の一部改訂案
 - (4) その他

5. 議 事
尾島理事(専務理事辞任のため)の司会により開会、今回は都合により、代議員会及び総会を同時に開催することになった件の了解を得た。出席代議員96名、出席総会員1,012名で、代議員会・総会の成立を確認。戸田会長が議長となった。

戸田会長から、社団法人日本外洋帆走協会(本部)は今後は公益法人として果すべき事業を中心に活動する。例えば泊地問題、桜マーク規制緩和問題、海保立入検査問題等の解決を見出したい旨の挨拶があった。

- (1) 1996年度事業報告及び収支決算
鈴木理事から1996年度事業報告について、レース事業、一般事業にしたがい資料より説明した。
鈴木理事から引続き1996年度決算報告書について説明した。なお、本年度からは決算報告書は本部・支部連結決算を廃止、本部決算についてのみ報告することとした。
(収 入)
会費及び艇登録収入は予算に対して410万円の増収となった。その他の事業収入(会報小委員会、計測委員会、会員サービス事業等)も予

- 算に対し112万円の増収となった。その結果実質的な借入金、補助金、その他を除くと、予算に対して283万円の増収になった。
- (支 出)
人件費はリストラが遅れたため予算に対し493万円の増額となった。借入金、補助金を除いても約2,000万円の赤字となった。臨時会費は前回まで一般会計を組み入れて報告していたが、今回は別会計とした。収入は資料のとおり訴訟対策費1,000万円に対し、1,294万円で大幅な減収となった。
長期借入金は関東支部基金より3,140万円、救済基金より1,150万円(内1,100万円を借入)で合計4,240万円となった。
(質疑応答概要)
小田代議員：長期借入金は社団法人では認められないのではないか。
鈴木理事：第三者からでなく、会員からの借入金であれば問題ない。
小田代議員：臨時会費(訴訟対策費)の一般会計への組入れ後の累積借入金の総額は。
鈴木理事：1995年度までは約2,300万円であったが、1996年度は一度ゼロとして始めた。しかし、1996年度は約809万円である。
(監査報告)
平野監事から帳簿上適正である旨報告があった。

<以上をもって議題(1)は賛成多数で代議員会の承認、総会の報告を終えた。

(2)1997年度事業計画及び収支予算
尾島理事から1997年度事業計画について、資料により説明した。一般事業は例年にならい計画したが、内容的には公益的役割を担う法人としての活動に重点をおく旨説明した。
鈴木理事から1997年度収支予算について説明があった。
(収 入)
1997年度は、総額収入を1996年度の10%減で組み立てた。このような状況から、臨時会

- 費の半額を一般会計に組み入れた予算になっている。特別事業は本部ではレース事業は行わないが、ジャパンカップの開催の上納金を計上している。東海支部より運転資金として500万円の借入金計上をした。予算総額は約6,850万円である。
(支 出)
人件費は1,860万円(常勤理事、職員、アルバイト2名 計4名)を計上している。計測関係ではレーティングオフィスへ外注するため300万円を計上している。会報は月刊を季刊とし実費300万円とした。その他支出の1,250万円のうち、500万円は返済金に充て、残金750万円は救済金の返済である。
(質疑応答)
小田代議員：臨時会費は訴訟対策費であって、一般会計への組み入れは矛盾している。予算不足であれば、会費値上げをすべきである。
尾島理事：了解した。緊急動議として①臨時会費の一般会計への組み入れは撤回し、本部予算を減額する。②会員が醸出する臨時会費の減額及び一般会費の増額については、次回代議員会に提議し決議を得ることにする。を提出したい。
(賛成多数)
小田代議員：従前の専務理事ほど高額でないにせよ、公務員出身の常勤理事を今後も事務局に置く必要があるのか。
戸田会長：今後は公益活動を本部事業の中心にする考えであり、海上法律関係に明るく、折衝力のある人材を常勤の理事として来てもらう必要がある。
鈴木理事：会員有志から長期借入金として1996年度 1,150万円の救済基金がある。1997年度は寄付金として特別会員から1口1万円で募金する。

<以上をもって議題(2)は賛成多数で代議員会の承認、総会の報告を終えた。>

- (3)日本外洋帆走協会組織運営規程の一部改訂案
尾島理事から、本件提案の主旨は、緊縮予算下において効率的な予算執行(委員会間の予算の流用等)と各種問題を大局的見地から討議するためには、同系列の委員会を統括するプロジェクトチームを策定することが必要である。しかし、本日の理事会で次回までに更に検討することになった旨報告があり、了承になった。
(4)その他
戸田会長からJY Aとの統合問題は一時中断していたが、最近協議を再開しようという機運になった。近々に交渉を開始することとする旨の発表があった。
尾島理事から、政策委員会において、会友艇制度と艇登録及び特別会員制度の整合性を検討し、矛盾点の整理を行った。NORCの基本である艇登録制度、特別会員制度、会友制度を現状に即した再整備を図る旨の発表があった。
林理事から全国計測委員会を2月8日実施、IMS及びCRについて協議を行い、整合を図った旨の発表があった。

以上で審議を終了し(2000)、1997年第1回代議員会・総会を終了した。

上記議事録を確認し、記名押印する。

平成9年2月23日

議 長 戸田 邦司

署名人 清田 博

署名人 市村俊明



駿河湾支部

- 支部主催夏のレースのお誘い
★第3回駿河湾チャンピオンシップシリーズ
日程：7月5日(土) 第1レース
6日(日) 第2レース
コース 清水・三保松原沖トライアングル
及びソーセージコース
参加資格 NORC登録艇または会友艇
表彰式・パーティー レストラン ベルジュ35

- ★第9回駿河湾カップ'97
夏の駿河湾横断オープンヨットレース
(チャンピオンシップシリーズ第3戦)
日程：8月3日
コース 清水・興津沖より沼津・大瀬崎沖
参加資格 自艇の責任において、レース海面を航行できるクルーザーヨット
表彰式・パーティー ホテル スカンジナビア
今年も清水みなと祭りで賑わう中のスタートとなります。多くの皆様のエントリーをお待ちしています。
※詳細につきましては、支部事務局までお問い合わせください。

- 事務所移転のお知らせ■■■
本年度1月よりベルジュ35 屋上より1F北側倉庫の一角に移転しました。
〒422清水市入船町13-35
電話：FAX共用 0543-51-3223

東海支部

- 東海支部 三河湾周遊レース
CR優勝艇 「ナルミ8」
福田 保夫
二日酔いと寝不足の辛い体に鞭打って、艇の機装をそそくさとするまで、辺り一面に牛乳をぶちまけたような真っ白な空間(霧がひどい)を、レース海面へ向かっている。風は数メートルといったところで、ベタ風ではないがガスが濃く、視界がきかない。
スタート後、あれほど見えた他艇も我が艇の走りが悪いのか時間が経つにつれ、遠くにかすんでいく。時折、他艇のクルーの声が遠くに聞こえその数分後、我が艇の目前に急に現れる本船の姿に肝を冷やす(この時、他艇の声の原因を知った)。豊橋No.1へ向かうまでほとんど他艇とミーティングもせず、GPSを信じ豊橋No.1をやっとのことで回航する。その間、リタイヤしようかとの話がクルーの中でちらつくが、この霧の中ではホームポートへ無事帰れるかどうかそのことが気になって、とりあえずレースを続行する。

- 野島へ向かうまでやはり濃霧の中をひたすら走る。本船の影におびえながら・・・。
やっと野島が見え視界が晴れてきた、と思ったらそれまでの微風から一転20ノット弱のプロローがコンスタントに吹き出した。そのプロローに乗り日間賀島まで一気に突っ走る。
ふと前方へ視線を移すと、先行艇が我々の到着を待っていたかのようにスピンをしばせている。我が艇ともう一艇「H」が鼠島際やや浅いところをショートカットし、気が付けば船団を一步リードしている。戸惑いながらもとりあえず同型艇の「H」だけは押さえようとクルーの緊張感が高まる。
しかし、神島から続いていたプロローもここへ来て一息ついてしまい、フィニッシュあとわずかというのに微風の持久戦へ突入する。気が付けばかなり離れていた船団も間近に迫りかわされるかもと少々心配するもフィニッシュ直前に2艇ほど抜かれただけで何とかホーンの音を聞

- くことができた。
東海支部の平成9年度第1回目のレースは濃霧・本船の影・微風及び若干のプロローに悩まされながらも結果は非常に満足のいく内容であった。さい先のよいレースであり、うまいビールを飲むことができたが、さて次もこんな調子でいけるのであろうか? いささか、疑問ではあるがうまいビールを飲めるよう、今シーズンも海で大いに遊ぼうと思う次第である。
以上

NORC本部事務局通信

- 常務理事就任にあたって
加藤正義(かとうまさよし)
はじめてご挨拶をいたします。
このたび、ご縁あって(社)日本外洋帆走協会に、本年4月から勤務することになりました。
私は、30年余海上保安庁に勤務し、退職後は五洋建設(株)、デッカ受信機を扱うセナー(株)に就職し、海に関しては多少なりとも判っているつもりでしたが、当協会の事業内容は奥が深く、この2ヶ月はあっという間に過ぎてしまいました。
前任の埴原専務理事の任期中は当協会でも多難な期間で、厳しいリストラが行われました。今後当協会本部に課せられた大きな任務は、中央において社団法人として取り組む課題を具体的に遂行することと承っております。会員の皆様が当協会に加入していることにより、必要な情報の先行入手ができるなど、メリット感を持っていたけりよう努力いたします。
本部にお越しの折には、現地の状況をお聞かせください。戸田会長のもと風通しのよい協会になるようがんばります。今後ともよろしくお願いいたします。

三河湾周遊レース成績表

I MSクラス			
総合順位		Sail No.	YachtName
1	JPN	5503	TAKE 1
2	JPN	5072	ELEUTHERA
3	JPN	4700	CARRERA L
4	JPN	5650	KoNIG
5	JPN	5011	GUST
6	JPN	5515	WISE ONE

C Rクラス			
総合順位		Sail No.	Yacht Name
1		5055	NARUMI
2		5298	HORNET 3
3		2762	KAITO
4		5418	セルフフィッシュ&カブリシヤス 3
5		4004	パラフレニアン

訃報

- NORC監事の加藤忠男氏(関東支部油壺フリート。CORVATSCH2・3オーナー。ABYCバイスコモドア。日本タイマート株式会社代表取締役。日本時計輸入協会理事長)は、病氣加療中のところ薬石の効なく去る3月8日東京都内の病院にて死去されました。享年69歳でした。
加藤氏は長年コラムジャパンカップの冠スポンサー、関西選手権のスポンサーをつとめ、また1988～89ジャパングラムヨットレースの実行委員長の際は史上初のアルゴスシステムの導入を自費負担し成功に導くなどNORCの外洋レースの発展に多大な貢献をされたことでも著名です。自艇にてチャイナシーレースに参戦するなどオフショアレースにも熱心な方たわら「ジェントルマン加藤」としてファンも多くその名声を関東ヨット界でほしいままにしていた方でした。
密葬、社葬また5月末の油壺における海上追悼式を通し多くのセーラーが会葬し、氏の“早すぎる死”を惜しましました。
謹んでご冥福をお祈り申し上げます。合掌。

N O R C 関 東 支 部 だ よ り

大勢は関東支部 4 分割の方向へ

6 月に線引きや方針がきまる

「支部分割の是非と今後の支部運営」を主な課題として、フリートキャプテン+代議員でフリート代表者会議を組織、3月以来、月2回のペースで今後の関東支部の運営方針の討議をつづけた。その結果、ほぼフリート代表者間で合意が形成され、この6月臨時代議員会に関東支部を分割し、新支部発足（4分割または5分割／大勢は4分割）案が上程される見通しとなった。まだ東京湾内で線引きに議論が分かれるところがあり、5月25日現在細目を発表できるところにない。新支部発足は来年の年初が予定されている。

●新支部の位置づけ

- ・本部組織に各支部ごとに直結。条件その他すべて他支部と同じ。
 - ・支部規則の策定、年間決算報告、会員募集、会員管理、集金業務、艇登録、計測、その他代議員、理事選出。
- ＜業務内容＞
- ・関東支部事務局が実施していた業務内容。すべて他支部と同じ。
 - ・しかし、FAXサービス、広報、各委員会などの共通業務は検討中。
 - ・支部規則など統一マニュアルを検討中。
- ＜事務管理費＞

- ・各支部会員1名につき5,000円（平均）として、会員400名の支部で年間200万円。ただし各支部より連絡会議事務管理費の分担金はある。
- ・会費を全員「銀行振込み」に切り替える（来年から実施決定）。

●連絡会議の位置づけ

- ・東京湾連絡会議と相模湾連絡会議をつくり、その上に関東水域連絡会議をつくる。
- ・レースや事業の各支部・クラブの調整機関で決定権はない。

＜業務内容＞

- ・2種類のFAXサービスを開設する（現関東支部の資産を継承）。

- パソコンFAXはレース関連の案内（E-mail検討中）。
- N T T のFAXは入会案内や広報／議事録／スケジュールなど。
- ＜事務管理費＞
- ・年間、家賃も含め、200万円程度を予定。各新支部から拠出。
- 関東支部基金について
- ・各支部から担当が出て共同管理。新支部には分散せず。

- フリート代表者会議における主な議論は次のように要約できる。
- フリート単独で支部になる方が運営しやすいと考えるが。
- …あまり小さい組織は人材的に行き詰まる可能性が多い。いままでのフリートと違って、新支部は大きな権限をもつことになる。他支部と同じになる。
- 大きなパイで存続させるべきだ。小さくしたら、間違いなく会員が減少する。
- …状況は現状でも人件費が出ないことだ。会費を値上げすれば、会員的大幅減少になり、N O R C の消滅につながる。ボランティアを中心に目にみえる範囲に組織を小さくしてやって行く以外にないと判断している。
- まずN O R C のメリットを考え積極的に宣伝して会員拡大に努力するのが先決ではないか。
- …まったくそのとおりだが（支部の方針を最終的に決めなければならない）6月までに会員拡大は不可能だし、今までも常に検討し、努力してきている。
- 支部の分割は財政の問題だと思うが、J Y A とのからみもあるのか。
- …J Y A との問題は、皆さんの意見を伺い本部に提案するもので、しばらくは支部の分割問題と分けて考えてほしい。東京湾はすでに独立したいと文書で提出されているが現在、

- 待っていただいている状況だ。
- 東京湾と相模湾を分けるのはいいが、さらに相模湾を分けることには反対である。相模湾を一体で運営するためにどのぐらいの費用がかかるか検討してもらいたい。
- …東京湾と相模湾に分ける考え方もあるが、東京湾が独立すると200~300名の会員が減るだけで、実態としては、優秀な人材が減り、収入が減り、逆に相模湾の運営が難しくなると思われる。分割問題は相模湾問題なのだ。東京湾はすでに、東京湾連絡会議があり、フリートとクラブは連携してうまく運営している。
- 本部と支部の会費収納比率（現行本部6支部4）を再度検討すべきである。
- …本部をつぶすつもりならできるが、実際は難しい。他の支部はこれで立派にやっている。
- 今回の支部分割案は他の支部がうまく運営していることが前提になっているが、なぜ、他の支部がうまく運営しているか十分検討する必要があるのではないか。
- …他支部はボランティアで事務をこなしている。でも悩みは関東と同じであり、今後は関東支部が考えているクラブを中心とした方向で運営していこう。いままでのN O R C の施策で大きな失敗は「ボランティアに対する考え方」を啓蒙できなかったことにある。参加する側と運営する側が、まったくわかれてしまった。
- S T C やミドルレポートにあれだけの艇があつま。レース事業で収入増を検討できないか。
- …基本的にはレース事業は不安定な要素があり、儲からないと考えるべきである。
- 支部を小さくすると同じ水域でスポンサーの取り合いになるのではないか。
- …スポンサー問題はN O R C がとりまとめるというには問題があると思う。現在のスポンサー状況ではレース事業の収益はほとんど出ないと考えるべきである。

- 顔が見える範囲でレース運営を分割することはメリットがあるが、事務管理を分割することは大変難しい。
- …本質的には、みんな分割には反対である。誰かがやってくれて、誰かがお金を出してくれて、今のままと同じようにできれば良いと考えるのは当然である。基本的に事務をいかにリストラし、能率化しても一定の事務量は残る。それを誰が分担するかだけである。最終的には金があれば解決する。金がないからボランティアでこなす以外にはない。会員はかならずしも協力的ではない。ボランティアでできるのは500名くらいが限界だ。他支部で聞いてもそれ以上はボランティアでは無理だという。一時しのぎの案ではだめだ。今は抜本的解決策が必要だ。大人数の事務をボランティアでこなすのは難しい。

フリート代表者会議議事録（要約）はつぎのFAXサービスに入っています。詳細はそちらをご覧ください。

- 第1回・3月13日
- …162…#287-03-3452-8115-69#
- 第2回・4月03日
- …162…#287-03-3452-8115-70#
- 第3回・4月10日
- …162…#287-03-3452-8115-71#
- 第4回・5月10日
- …162…#287-03-3452-8115-72#
- 第5回・5月15日
- …162…#287-03-3452-8115-73#
- 第6回・6月6日
- …162…#287-03-3452-8115-74#
- 第7回・6月13日
- …162…#287-03-3452-8115-75#

盛りだくさんの議事、無事終了

- 97年定時代議員会・総会報告
（総会は代議員会と併催）＜要点＞
1. 平成9年2月23日13:00~15:30
 2. オカモトヤビル4F
 3. （出席代議員氏名）46名順不同敬称略
福田義一・津野守邦・米原守・田辺秀明・鳥山睦郎・安木邦貴・市原恭夫・方栄世・林岳彦・初鹿野幸生・高村宏・清水泰文・石渡一夫・平田克己・樺田敏雄・清田博・市村俊明・萬里小路昌秀・藤山勝濟・菅野道・大口真司・伊藤彰男・古屋静男・脇坂菊雄・高野克己・横沢真則・山崎正二郎・藺信雄・大野健作・松永武士・浪川宏・大坪明・市川徹・柴田俊樹・大川和好・畑田晴彦・佐藤三次・斎藤晴彦・矢野守夫・原田八郎・関恭一郎・岡田敏久・堀口三備・児玉源寿・加藤直治・榎本克也
（欠席代議員氏名）委任状・書面議決制度なし。順不動敬称略
欠席届：前田泰明・別部尚司・福林紀之・中里英一・植松真・北村勝彦・馬目徳男・大石好幸・西脇豊・田中一美・斉藤忠弘・沼田尚文・市川茂木・池田栄八・佐藤勝無断欠席：宮澤秀治・鈴木利夫・日向野行平・福林紀之・安高知二・中谷林平・小河原隆・小坂橋博行・朝河清・蒲谷和行・鈴木駿一郎・小沢美弘・石崎圭介・古川利勝・岩澤文男・高橋哲郎
 4. 議題：第1号から第9号議案まで本誌記事にすべて記載のとおり。全会員配布済み。
 5. 出席者の確認：代議員定数77名。開会時出席者で規約により成立。
 6. 議事録署名人：田辺 秀明、石渡 一夫を決定。
 7. 議長選出：油壺フリート市村 俊明を選出。
 8. 報告：本部支部の分離完了ほか、本誌記事に包含のとおり。
 9. 議事：本誌記事にすべて記載のとおり。審議終了15:30 以上

詳細議事録はA4、8ページをFAXサービスに入れてあります。ご参照ください。FAXサービスのアドレスは、162…#287-03-3452-8115-61#&62#

本部と支部の分離が完了、決算は、赤字→黒字に転換

- 【第1号議案】96年事業報告（高田副支部長）
1. レース事業について
 - ・近い将来の支部細分割に向けてレース事業の主管をクラブ重視で運営した。その結果、支部分割を実施しても、レース運営に支障がないことが立証された。
 - ・今期のレース事業収益は150万円程度、実質的にはフリートやボランティアの人件費を支部に納めたかたちで、一般的にレースをすれば「儲かる」ということではないことが立証された。
 2. 事務局運営について
 - ・この1年は破産管財人の仕事をしてきたようで、96年5月に事務局員が退職、補充をせずに役員が自分の家族や社員を使ってFAXサービスを中心として事務局を運営してきた。
 3. 特別事業について
 - ・9月に笹川スポーツ財団の補助事業としてニュージーランドから「ハロルド・ベネット」氏を招聘、コーチングセミナーを実施した。多少問題があったが、長期的にとらえる必要がある。
 4. 本部／支部の完全分離について
 - ・事務所だけでなく、人も会計も完全に分離できた。この分離では特に会計については複雑で、分離するには大変苦労した。

- 【第2号議案】96年本決算・支部基金決算（山本理事）
- ・前期繰越し収支差額6,593,297円の負債については、関東支部基金より、繰入れ相殺し、今期はゼロベースでスタートした。
 - ・今期は1,222,386円の黒字でこれを次期繰越

- しとした。
- ・この決算書はすでに公認会計士により監査されている。
- ・関東支部基金の収入は69,332,853円、次期繰越収支差額は52,713,347円となる。

- 【第3号議案】支部基金97年事業計画・予算（山本理事）
- ・本部との分離により、97年の支部基金は完全に関東支部管理となり、事故負担金（臨時会費）も他支部と同様に会費とともに会員が納める方式となり、支出の部はゼロで計上した。再び基金は増加に転じることとなる。

- 以上3件（96年事業報告・決算、支部基金97年事業計画・予算）について採決。満場一致で承認された。

堀口・石渡両氏が支部理事に就任

- 【第4号議案】支部理事3名増員案（関東支部運営規則一部改定について）
- ・本来、理事は選挙で選ぶが、大変時間と経費がかかるため、支部長指名として3名の理事増員の承認を願い、広報活動とFAXサービスを強化したい、との提案。
 - ・活発な議論があった。主たるものは理事の権利関係、規則との整合性であった。これを採決。賛成27 反対13 棄権10で可決承認された。

- ＜4月に入り、支部長が堀口三備（熱・伊／クリスター）と石渡一夫（油壺／プロバガンダ）の2名を理事に補充指名。堀口氏がFAX関係を、石渡氏が広報関係を担当することとなった。（まだ一名空席）＞別記事参照

人件費不足で暫定予算となる

- 【第5号議案】97年支部事業計画・暫定予算

- について
- ・事業案・暫定予算案（全会員に配布済み）にもとづき以下の要点説明があった。
 - ・現況、常用の事務員を雇用すると会費収入で管理費をまかないきれないので早急に関東支部の将来の方針を確定する必要がある。
 - ・関東支部の運営を基本的に管理部門と事業部門を別個とする方針をとり、さらに支部の細分割を推進せざるを得ないと判断している。
 - ・従来の予算表との違いは
 - 1 会費収入および艇登録と管理費を対応させた。
 - 2 事業収入と事業費は収支が分かりやすいようにした。
 - 3 従来、特別事業は一般会計と別枠であつたが、97年度は補助金の見通しがなく、一般事業に繰り入れた。
 - 4 96年度の実績に比べて収入および支出の部分をかなり抑さえ、収入の部分は15%減で設定している。
 - 5 セミナー事業関連を新たに加えた。
 - 6 フリート助成金は現状では準備できない。
 - 7 今後の課題として支出の部の管理費で後期に残る人件費としては120万円。97年度は若干の赤字予算で設定している。
 - 8 通信の運営費については現在見直し中。
 - ・年末パーティ：東海支部では隔月の拡大常任委員会において表彰式を実施し、年末には誰でも参加できるパーティを開催している。関東でも再考する必要がある。年末に赤字要因を抱えるのは執行部としてはつらい。
 - ・97年の事業計画はヨットクラブ主催のレースに協力し、CRルールなども積極的に利用してもらう。
 - ・会友艇について：基本的にセールナンバーの交付だけでN O R C の正式レースには参加できないことを明確にする。会友艇のレースを限定する。
 - ・セミナー事業では、ルール講習会、計測の講習会を積極的に実施する。

- 以上を採決。賛成45 反対0 棄権1で可決承認された。

支部の細分割、実施の方向へ

第6号議案 関東支部細分割の実施について
以下の決議をする。
1. 財務の緊迫により、極めて速やかな実施が必要とされ、分割の時機を97年12月31日とすることを97年6月開催の臨時代議員会で決める。
2. 97年末の分割を延期またはとりやめまたは部分分割の場合は、6月開催の臨時代議員会で今後の具体的財務対策・事務局体制を決める。
3. 全フリートキャブテンおよび全代議員により各フリート代表者会議を設ける。
4. フリート代表者らは、必要に応じ、区割り小委員会ほか必要な小委員会を含む“関東支部の細分割実施にかかわる問題処理委員会”を主導設置し、6月開催の臨時代議員会に具体案を上程、決定する。以上

・現在執行部では関東支部はすでに破産しているとの見解にたっている。現状のままで人を雇用して、今のかたちで運営することはできない。
・今後は
1 会費の値上げで対応していくか（関東支部だけで4,000円程度）
2 事務局運営の方向を変えて実行していくのか。この2つの方法しかない。しかし、関東支部の将来を考えると会費値上げの方針ではなく、組織を小さくしてクラブとの提携や顔の見える範囲でのボランティア活動を中心とした運営に切り替えていくことが望ましいと考える。
・6月下旬の代議員会までに、各委員会を充足し、フリート代表者と分割の線引きなど具体的な細分割作業を推進していく。執行部としては、今や関東支部の一本化運営は不可能だと判断している。
・細分割の組織については、まだ具体的ではないが、関東支部細分割後の支部全体で連絡会議を設置する。
採決。賛成43 反対1 棄権2で可決承認された。

その後の経過は、別記事をご参照ください。

来年分から会費は（カード会員以外）全員が「銀行振り替え引き落とし」に移行、きまる

第7号議案 会費納入について以下決議する。
1. 関東会員は、会費納入を98年会費から“銀行口座振替払い”または現在の“カード引き落とし払い”とする
2. このため、関東会員は引き落とし書類を97年10月10日までに提出すること。両制度に應じない自己払い会員（前項の提出期限に間に合わなかった会員を含む）には、98年から会費の一部として“自己払い会員事務処理加算金”を賦課する。この加算金の支払に応じなかった会員は、会費未納の取扱いとする。その加算金額は事務外注処理に必要な金額を想定し、3,000円とする。以上
・今まで800万円から1,000万円の会費収入があるが、結局、会費を集めるための事務局の人員費となっていたのが現状。今後は全会員が会費を「銀行振り替え引き落とし」としたい。
・もし、自己払いを希望する（この制度を拒否する）会員は、会費処理加算金として（外注委託ができるよう）3,000円を別途徴収する
・事務量をへらすため、また、年初に収入を確定させ、予算主義で会を運営することができるようするために、会費の収納のやり方を変える必要がある。
・会費収納を住友グループの（株）CSSに外部委託。委託費用は一年会員一人150円。
・いままでは、この会費請求・収納事務のために数百万円の給与を支払って事務員を雇ってきた。つまり、会費を集め、事務員を生活させてきた。私たちの会費を人件費に浪費してはならない。
・いま関東支部には常雇事務員は一人もいない。今後もバイトを使いボランティアでやらねばならない。支部細分割になった場合は外注委託はなおさら必要。

・会員証はNORC支部から発送する。支部が小さければ手渡しができる。経費節約。あるいは、一時期の仕事故、一括外注依頼も可能。現在はバラバラ入金なので不可能。
・UCカードはいろいろな問題があるため、自分の銀行口座からの振替に順次変えていきたい。目下問題解決策を交渉中。しかし、当面は温存。

具体的やり方
1. この制度は前年末に、引き落とし額、引き落とし日を会員に知らせた上で、その年の会費を1月25日に引き落とす制度。NORCの会費は、毎年その年の2月末日が納入期限。これを守らない会員多数。
2. 退会や住所変更は銀行に通知する関係で前年11月末までに届け出る。それ以降は銀行とのデータの変更が困難。年末までに退会通知をした分で、引き落とされたら返金。
3. この辺の会計規則は11月臨時代議員会までに成案を作り議決する。
4. 新入会員、すでに義務づけ、可決済み。実行されている。
5. 会費の値上げなど変更がある場合は、会費徴収の前年の11月までに代議員会の議決を経る必要がある。また、会費については、総会で承認されないと変更等はできない。したがって、会員が承知していない額を引き落とされるようなことはない。
6. 10月10日までに全会員同調、書類押印が義務。現カード会員は当面そのまま。
採決。賛成43 反対1 棄権2で可決承認された。

会費納付の延滞金徴収がきまる

第8号議案 会費納入期限後の納入者に事務加算金を課す案について
会費納入を規定期限内に納入しない会員への対処について以下決議する。
1. “銀行口座振替払い”“カード引き落とし払い”で口座残高不足で振替実行不能会員および“自己払い会員”の会費納入期限は規定により毎年2月末日であることを確認する。
2. 前項の会員が会費を4月9日までに指定口座通帳に記入されるように納入しなかった場合は、会費納入遅延事務処理加算金を賦課する。さらに遅延し、9月9日までに指定口座通帳に記入されるように納入しなかった場合は、会費納入遅延事務処理倍額加算金を賦課する。これらの賦課金は97年から会費の一部とし、賦課金の支払に応じなかった会員は会費未納の取扱いとする。この賦課金額は事務外注処理に必要な金額を想定し会費納入遅延事務処理加算金は3,000円および同倍額加算金は6,000円とする。
3. 前項の規定にもかかわらず、97年においては、請求書発行が遅延したため、会費納入期限を5月30日までとし、会費納入遅延事務処理加算金の賦課開始日を9月9日とし、会費納入遅延事務処理倍額加算金の賦課は行わない。以上

・97年は事務をボランティアで処理していたため、時間的に余裕がなく、年会費請求事務が遅れた。そのため会費納入期限を5月末日に変更した。
・規則ではその年の2月末日が納入期限である。
・この事務処理加算金の制度は会員に会費早期納入を促すとともに、会費遅納会員の事務処理を外注に出すため、その費用を捻出する必要がある。
・この加算金を払わない会員は会費未払いとして処理したい。
採決。賛成42 反対0 棄権4で可決承認された。

本部貸付金の返済免除、審議延期となる

第9号議案 本部への3,140万円の貸付金の返済を免除する、ことを決議する。
ただし、以下の点について、本部は真摯にうけとめ、その対策を明確にしていきたい。
1. NORCは誰が、どう、何に責任をもち、

誰が、どう、何を決めたかがあいまいな運営をしてきた。これを機会にこれらのことを明確にして運営してもらいたい。
2. 法人は予算主義で運営すべきで、見込み収入で事業を展開すべきではない。再び巨額な赤字を計上しないで済むような運営に徹してもらいたい。以上
・本部の運営状況から、3,140万の貸付金返済は不可能と判断している。
・また、JYAとの問題や公益法人としての立場からいつまでも放置できない。執行部としては残念ながら返済免除はやむを得ないと考えている
・今後、責任体制を明確化し、戸田新体制で、新生NORCを再出発させたい。

お ● 知 ● ら ● せ ● ● ● ● ●

無料でNORCのクラブ旗を配布します
出港時には必ずクラブ旗の掲揚を！

最近、あちこちで、海上保安庁による不愉快な海上臨検がみられるようになっていきますので、関東支部は支部所属の特別会員艇に無料でNORCのクラブ旗を配布することにしました。会員艇は出港時には必ずクラブ旗（レース中はこれに代りレース旗）の掲揚を励行してください。関東支部では、当局に支部所属の艇の名簿を配付すると同時に「クラブ旗を掲揚したNORC所属艇は安全にも備品にも注意し、会としても安全航行を指導している優良艇である」と申し入れ、当局から理解を得られた。

名簿の発行間近か

昨春秋、本部と関東支部が分離するにあたり、関東支部の会員データの徹底的整備を始めたが、このたび、当初の計画どおりの整備が一段落しましたので1988年以来発行していなかった会員名簿（関東支部版）を発刊できる運びとなりました。名簿は昨年発刊の予定でしたが、データが古すぎたため断念。会費請求書に調査ハガキを同封配布、会費納入とともに調査ハガキを回収しました。それを基にデータを整備しなおしました。名簿に収録される会員はとりあえず5月末日までに会費を納入した（調査ハガキでデータを確認できた）会員とします。残余の会員は（すでに2回予告した通り）補遺版に収録されることになります。

FAXサービスが2系統となる
レース関係は03-3452-8377へ

関東支部では人件費の節約のためFAXサービスを有効に活用してきましたが、先月から従来のFAXサービスに加え、支部のパソコンで管理発信するいわゆる「パソコンFAX」を開始、関東支部ではFAXサービスが2系統となりました。新系統の「パソコンFAX」にはレース関係を全部移行しました。「パソコンFAX」とはいえ、会員の側ではパソコンを用意する必要はなく、ただ普通のFAXの機器があれば利用できます。
番号は03-3452-8377。例の162...#287...は必要ありません。普通のFAXや電話にかけるとお願いいたします。音声ガイダンスに従い操作してください。
なお、うまく接続できない場合は電話回線がアナログ回線とも考えられますのでトーンボタン等を押してデジタル化してお使いください。また、受話器のついていないFAX機器、コピー機と兼用になっている機器の場合は、機器のカタログを参照してください。接続不能の場合は支部まで症状を書いてFAXでご連絡下さい（支部FAX03-3452-8031）。対策を考えましょう。
ソフトに不具合が見つかり、そのため初期故障がたまに起きており、一部会員にはご迷惑をおかけしました。ソフトメーカーと対策を研究中です。故障の場合はハローダイヤル044-244-8600で対応しています。ご連絡ください。ハローダイヤルでは（当方への報告のため）会員番号とお名前をお聞きます。ご協力ください。

☆これについて主に以下の意見があった。
・貸した側にも責任がある。この際清算するのはやむを得ない。
・本部業務との関連で、業務委託費とか、会議室使用料とかで貸付金を相殺したらどうか。
・本当に戸田現会長には責任はないのか。人事に深く関与していたのではないのか。
☆緊急動議が提出された。
借りた側の本部から何ら具体的な提案がないのに、貸した側の関東支部から債務免除を提案するのはおかしい。よって、この案の審議は6月の代議員会まで延ばすべきである」
この緊急動議を採択し、裁決。賛成21 反対13 棄権7で可決。9号議案はこれにより6月の代議員会まで審議を延期した。以上により代議員会・総会を閉会した。

従来の162...#287でアクセスするFAXサービスにはレース以外の会務関係の書類、広報、議事録、スケジュール、お知らせ、外部からの通報などが収録されています。総合メニューを覗いてください。総合メニューは162...#287-03-3452-8031-07#です。

「関東支部臨時代議員会」、無事終了

97年6月21日（土曜）午後1時開会
虎ノ門交差点際・第二オカモトヤビル会議室03-3591-8181
議題：関東支部分割の実施について
支部本予算の確定について
事業計画の一部変更について
96年会費未納者の除名処理について
本部への貸し付け金の処理について
本年分の会費遅納会員の事務処理加算の徴収実施について
その他

この代議員会で今後の支部の運営方向が実質最終決定されます。
代議員に配布の資料は準備後、FAXサービスにいきます。
アドレスは162...#287-03-3452-8115-65#と#66
審議後の議事録は162...#287-03-3452-8115-67#と#68

広報を充実させます

月刊offshoreがなくなり、今回のように変貌しました。季刊ということです。これも予算に限りがあり、やむを得ません。Iloffshoreを続けるにはそれだけで相当な会費値上げが必要だからです。もう、本部も関東も、赤字は出せません。
そこで、本部も広報の隙間を埋めるため、やむをえず、月刊誌の一部を利用させてもらい「関東支部だより」を載せて会員広報につとめています。関東支部でも、別掲の新理事を補充し、今月から会員広報により力を入れることにしました。
NORCのさまざまな活動やレースを会員だけでなく、より多くの人々に知ってもらうためにも必要なことから、関東支部でも、積極的に「KAZI」「Yachting」の両誌に各レース経過および結果を掲載していただくよう働きかけ、支部サイドから記事や写真を提供・準備するよう体制を整えました。可能なかぎり掲載していた方向です。
伝統ある関東水域の島まわりレースはいつときの多数参加はみられませんが、脈々とつづいています。また、ロングレースの復活もささやかれています。
なお、商業月刊誌に掲載されるものは、（写真をのぞき）関東支部FAXサービスでも掲載しますのでご利用ください。
関東支部独自で広報誌を出すのは予算的にむりですので、FAXサービスへの情報入力を今後、より充実させます。また目下E-mailでの配信を研究中です。ノウハウお持ちの会員の支援を希望します。